

地理歴史科（政治経済）学習指導案

1 単元名 現代日本の諸課題の探究

この単元は、「2 内容」の「A 現代日本における政治・経済の諸課題」の「(2) 現代日本における政治・経済の諸課題の探究」に該当する。

2 単元目標

- (1) 現代日本における政治・経済の諸課題を理解し、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる。
- (2) 統計的事実を読み取り、複雑な社会事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考察し、さまざまな立場から解決の在り方や方法を構想する。
- (3) 課題について、当事者意識をもって考察し、課題解決に向けて主体的かつ具体的に取り組む。

3 単元計画（全体8時間）

(1) 指導計画

- ・ジグソー学習オリエンテーション、既習事項の確認 1時間
- ・地域社会の自立と政府 2時間
- ・多様な働き方、生き方を可能にする社会 2時間
- ・少子高齢化における社会保障の充実、安定化 2時間（本時6／8、7／8）
- ・まとめ 1時間

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日本社会の現状と課題について理解し、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめている。	・統計的事実を読み取り、複雑な社会事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考察し、さまざまな立場から解決の在り方や方法を構想している。	・課題について、当事者意識をもって考察し、課題解決に向けて、主体的かつ具体的に取り組んでいる。

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B)具体的な評価規準 (C)具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (1)	【学習課題】<単元を貫く問い> 「現代日本の諸課題を解決するために“幸福・正義・公正など”の視点で具体的な構想を考えよう」 ・単元を貫く問い ・小テスト	【ねらい】単元を貫く問いを確認することで学習の見通しをもつ。	●			(B)既習事項の知識が定着している。	・小テストの結果により評価する。
第2次 (2)	【学習課題】 「地域社会が自立し、持続可能な発展と生活の向上を支えるためには、どのような政策や制度が求められるか」 ・地方財政の現状 ・地域の取り組み	【ねらい】地方自治の課題に対する取組を考察する。		●		【思】 (B)地域住民の生活の向上を支える政策や制度を構想している。	・ワークシート 学習課題の記述を基に評価する。
第3次 (2)	【学習課題】 「労働者が豊かな生活を送るために、どのような政策が求められているのだろうか。」 ・雇用環境 ・働き方改革関連法 ・海外の事例	【ねらい】働き方をめぐる労働政策とその課題を考察し、課題の解決方法を構想する。		●	●	【思】 (B)多様な働き方・生き方を選択できる社会の在り方を説明している。	・ワークシート 学習課題および振り返りの記述を基に評価する。
第4次 (2)	【学習課題】 「持続可能で効率的で公平な子育て支援策を実現するために、どのような取組が求められるか。」 ・自助・共助・公助 ・海外の事例	【ねらい】社会保障(子育て支援策)の課題を認識し、課題の解決方法を構想する。		○	○	【思】 (4)ア参照 【主】 (4)イ参照	・ワークシート 学習課題および振り返りの記述を基に評価する。

第5次 (1)	・単元を貫く問い ・次単元（国際政治及び国際経済）の見通しを立てる。	【ねらい】日本の諸課題から国際社会の課題に視点を広げ、国内外の問題が相互に影響していることに気付く。		●	【主】 (B)日本の諸課題の解決を踏まえ、国際社会の課題を見いだそうとしている。	
------------	---------------------------------------	--	--	---	---	--

(4) 評価規準

ア ワークシートまとめ(1)の評価規準【思考・判断・表現】

持続可能な社会保障（子育て支援）を実現するための具体的な構想を考え、説明することができる。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・子育て支援において、自助・共助・公助をどのように組み合わせるべきか、根拠を示して説明することができる。

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・子育て支援において、自助・共助・公助それぞれのメリット・デメリットを考察した上で、どのように組み合わせるべきか、自分の考えを説明することができる。

「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援

・子育て支援について自分の考えを、根拠をもって説明することができていない。→自助・共助・公助のあるべきバランスと受益・負担のあり方の関連を理解させる。

イ ワークシートまとめ(2)の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

持続可能な社会保障を実現することを自らの課題として捉え、学習の見通しをもつことができる。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・子育て支援策を構想する中で、自らの問いを立てることができる。

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・子育て支援策を構想する中で、自らの問いを、効率や公正な視点を踏まえて立てることができる。

「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援

・自らの問いを立てることができていない。→問いを立てられるように支援する。

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

ア 持続可能な社会保障（子育て支援）を実現するための具体的な構想を考え、述べる、

イ 持続可能な社会保障を実現することを自らの課題として捉え、学習の見通しをもつ。

(2) 本時の展開（2時間分）

（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	・既習事項の確認	・少子高齢化社会における社会保障制度（子育て支援政策）の現状を理解する。	・ICT端末を活用するが、ネットワークのトラブルに備え、紙媒体を用意する。
展開1	<p>【本日の問い】「自助・共助・公助をどのように組み合わせるべきか？」</p> <p>・エキスパート A班 自助を重視 B班 共助を重視 C班 公助を重視</p>	<p>・各班（エキスパート班）に与えられた異なる課題を考え、Google Formsに入力する。</p> <p>・ジグソー活動の準備をするために、必要に応じてGoogle Formsの回答を修正する。</p>	<p>・受益と負担の在り方を考察する際に、独身世帯や子どもがいない世帯にも留意させる。</p> <p>・スプレッドシート（「エキスパート」）を開き、各班のタブを確認するよう指示する。</p>

展開2	・ジグソー	・本時の課題「自助・共助・公助」をどのように組み合わせるべきかをジグソー班で考える。	・スプレッドシート（「ジグソー」）を開き、各班のタブを確認するよう指示する。
展開3	・クロストーク	・スプレッドシート上で、各班の答えを共有し、比較検討する。	・スプレッドシート（「クロストーク」）に考察した内容を入力するよう指示する。
まとめ	・まとめ	・「自助・共助・公助」をどのように組み合わせるべきかを再度、個人で考える。	・本時の授業を振り返り、自らの考えの変化や深まりについて見つめさせる。
	・振り返り	・Google Classroomで提出する。	○ワークシートの記述内容 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 本時の評価規準

3 (4) 参照

5 成果と課題

(1) 成果

Google Classroom を利用したため、授業資料の共有、課題の提出、評価のフィードバックを一元管理することができた。また、生徒同士の情報共有がスムーズに行えたことによって、対話が促され、より深い学びの時間を提供することができた。

また、単元の学習を通じて、生徒が対話の手がかりとなる話型（質問内容）を提示（ワークシート4参照）し、スモールステップに取り入れることで、生徒の思考を活性化し、各自の考えを深めることができた。このような工夫により、「対話的な深い学び」を実現することができた。評価結果は以下のとおりであった。

		A	B	C
思考・判断・表現	(第2次)	13%	63%	24%
	(第3次)	40%	50%	10%
	(第4次)	59%	33%	8%
主体的に学習に取り組む態度		30%	61%	9%

(2) 課題

エキスパート活動とジグソー活動において、グループごとで学習活動の進行状況には大きな差が見られた。特に一部のグループでは、教員が支援しても、対話が進まず、意見交換や情報共有がスムーズに行われない場面があった。グループ学習の効果を最大限に引き出すためには適切なグルーピングが不可欠であり、例えば、各自の特性などを考慮してバランスの取れたグループをつくることが重要である。

ICTを活用して生徒の学習の変容を見取る際に、ワークシートを学習活動ごとに分けたため、生徒の変容を一目で確認することが難しく、評価に多くの時間を要した。一枚のシート形式に変更する必要があると考えている。

6 参考文献

- ・『協調学習 授業研究ハンドブック』（教育環境デザイン研究所、2024年）
- ・『対話型論証による学びのデザイン』（松下 佳代、勁草書房、2021年）
- ・「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム（千葉県教育委員会、2024年）